

## 中濃農林事務所（５月）の普及活動状況

### 今月の重点活動

#### ■ゆず 病害虫被害軽減に向けた農薬展示ほの設置

関市上之保地域のゆずは、これまで農薬を使用しない栽培を特徴としていたが、品質低下が問題となっていた。

そこで昨年度、農薬による防除の実証ほを設置し、5月中旬（開花前）、6月上旬（開花直後）、6月中旬（果実肥大始め）の3回の防除を実施したところ、外観品質が向上し、費用対効果が高いことが認められ、農家が実施可能と思われる防除体系が確立できた。

今年度は「上之保ゆず研究会」の展示ほ場において、昨年同様に開花前の5月13日に1回目の防除を行った。「上之保ゆず研究会」では、農薬使用を課題の一つと位置付けており、今後この展示ほ場で会員による研究会を行い、農薬の使用について検討を行う予定である。



【農薬散布の様子】

（地域支援係）

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■JAめぐみの実証ほ場 第1回月例ミーティング

JAめぐみでは、管内で生産される主要品目である夏秋なす、冬春いちご等を実証栽培し、営農指導員の育成研修や新規就農者に対する技術習得の場として活用されている。

5月11日に今年度の第1回月例ミーティングが開催され、JA、研修生、農業普及課が出席した。会議では、今年度の研修課題・計画が示され、今後の作業計画等について検討を行った。

農業普及課からは、研修終了後を見据えた研修生の就農準備活動についてアドバイスし、就農に向けた関係機関の一体的な支援を確認した。今後も、毎月のミーティングに出席し、実証圃場の運営および研修生の就農準備を支援していく。



【会議の様子】

（地域支援係）

### 安心して身近な「ぎふの食」づくり

#### ■水稻（採種） 苗審査の実施

5月10日、19日および24日に、(農)美濃種子の苗審査をJA担当者と連携して実施した。

曇雨天が多く、また夜温がやや低い傾向のため、例年より生育が遅れている様子であったが、出芽揃いは良く、ばか苗病等の種子伝染性病害の発生も問題ないことが確認された。

農業普及課では、引き続き種子生産を支援し、優良種苗を安定確保していく。

（地域支援係）



【苗審査の様子】

## ■水稲 ジャンボタニシ防除対策の実証

南米原産のスクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）は、1981年に食用の目的で日本に導入されたが、養殖業者等の廃業によって水路や水田で野生化し、田植え直後の軟らかい水稻苗を食害して問題となっている。数年前から関市内でも被害が確認され、暖冬による越冬数の増加とともに生息域も徐々に広がっている。

今年度、関市の水稻生産者が県のジャンボタニシ被害のまん延防止に向けた総合的な対策の実証業務を受託し、5月3日に移植と同時に食害防止と殺処分を目的とした薬剤を散布した。今後、水稻の被害状況や生息状況等を調査、報告していく。

ジャンボタニシ対策は、農薬施用の他に、給排水口からの侵入防止、浅水管理、冬耕起、卵塊除去などを組み合わせて実施する必要がある、農業普及課では被害軽減の取り組みを支援していく。  
(地域支援係)



【田植前のジャンボタニシ】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■米・ほうれんそう 規格外ほうれんそうを活用した米粉パスタの商品化

5月11日に、関市の農業生産法人 PLUS（株）で、ほうれんそうを使った離乳食用の米粉パスタの商品化について記者発表が行われた。

この新商品は、同社が栽培する岐阜県産ハツシモを原料とする米粉に、専用の機械で乾燥し粉末化したほうれんそうを練り込み、離乳食用に短めに仕上げたパスタである。練り込まれるほうれんそうは、まことファームが関市内のほ場で栽培したもので、調製作業で除去した本来捨てられる外側の葉を活用している。

農業普及課では、JAを介して、PLUS（株）より「管内のほうれんそう生産者を紹介してほしい」と相談を受け、これまで栽培支援等をつながりがあったまことファームを紹介した。

農業普及課では今後も、関係機関や生産者との繋がりを大切に、地域にある課題や要望等に耳を傾けながら、地域の農業振興が繋がっていくよう支援を行っていく。  
(地域支援係)



【記者発表の様子】